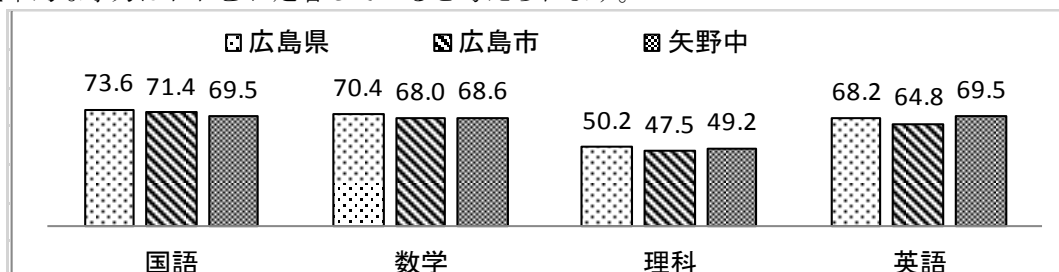


「基礎・基本」定着状況調査について

1 各教科の平均通過率

平均通過率が、英語は県平均・市平均とも超え、数学・理科で市平均を超えており、基礎的・基本的な学力はおおむね定着していると考えられます。



2 各教科の課題と改善・取り組み

【国語】

全領域の平均通過率は69.5%であり、基礎的・基本的な学力はほぼ定着していると考えられますが、「聞くこと」以外はいずれも県平均を下回っています。特に、「書くこと」の領域は、県平均が55.4%に対し、本校は49.0%で、課題があると考えられます。

領域別に見ると、「聞くこと」は、通過率95.1%で、ほとんどの生徒に力がついていると思われます。「書くこと」では、根拠や伝えたい事実を明確にした記述をすることに課題があります。今後、説明的文章の学習で、意見と理由を明確にする指導に力を入れるとともに、作文等「書くこと」の学習をもっと充実させていきます。

「読むこと」では、登場人物の心情の把握に課題があるようです。「言語事項」では基本的な漢字の読み書きや故事成語などはほぼ定着していますが、主語・述語の関係について理解できていませんでした。日頃の授業でこれらの力の定着を図るように取り組んでいきます。

【数学】

数学は、平均正答率が68.6%になっており基本的な学力はおおむね定着していますが、「関数」の領域を中心に県平均を下回っているため、授業での既習事項の振り返りを繰り返すことで、より一層基礎・基本の定着に努めていきます。また、タイプⅡ（活用）が平均通過率53.2%（県平均57.2%）と低く、課題があると考えられます。今後は、活用の力を深めるために、問題把握や考え方の筋道を明確にするための指導に力を入れていきます。また、根拠に基づいた説明を行う力をつけていくよう取り組んでいきます。

数学の授業についての意識調査では、「解き方や考え方を話し合うときに理由をあげています」と答えた生徒が52.4%と設問の中で一番低い結果でした。このことから、問題演習などでこれまで学んだことを活用し、理由をあげることができるよう発問を工夫し、理由をあげて説明をする場面を増やすことで分かったという実感の持てる授業にしていきます。

【理科】

理科は、化学の領域の通過率が68.3%と高くなっていますが、それ以外の領域の通過率は50%以下と低く、特に生物の領域が38.6%と低い値となっています。また、基礎・基本的な知識・技能を問う問題が49.8%、知識・技能を活用する力に係わる内容をと問う問題が48.2%と県平均と大差はありませんが、この結果から基礎・基本的な知識が定着していないことが分かります。従って、今後は学習した内容をまとめ、小テストなどを利用して基礎・基本的な知識を定着させていくよう取り組んでいきます。

理科の学習に関する意識調査で「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」という質問にあてはまると答えた生徒が47.2%と最も低い結果でした。従って、今後は授業の中で思考したり、生徒どうしで説明したりして自分の意見を発表する機会を多く設けるよう取り組んでいきます。

【英語】

英語科では「聞く」「読む」「話す」の4つの領域の中で、「聞く」ことは81%、「読む」ことは76.4%と高い通過率となっています。しかし、「書く」ことにおいては59.9%と通過率が低く、英文を書くことに苦手意識を持っている生徒が多く課題があるといえます。授業では今後も「読むこと」に重点をおき、教科書の音読や暗誦に取り組んでいきます。またコミュニケーション活動を通して英語を話す機会を増やしていくとともに、たくさんの英文に触れることができるよう指導していきます。また「書くこと」においては、定期的に小テストを実施し、基本的な単語や英文が定着できるよう取り組んでいきます。そして、毎日ノート（家庭学習）を活用し、丁寧なノート指導を行っていきます。

3 生活と学習に関する意識・実態

■生活習慣：朝食を毎日食べている生徒は96.1%、ほぼ毎日同じくらいの時間に起床している生徒が93.3%となっており、基本的な生活習慣が身に付いています。同じくらいの時間に寝ている生徒が84.3%と少し低いのは塾や習い事、そして携帯電話が影響していると思われます。今後も規則正しい生活習慣の定着を図っていきます。

■学習習慣：学校の授業の予習・復習をしている生徒は34.6%、52.4%、自分で計画を立てて勉強している生徒は44.1%となっており、計画的な家庭学習の習慣化が課題です。継続的に宿題を出したり、定期試験ごとに学習クラスマッチを実施するなど、自主的な家庭学習が進められるよう取り組んでいきます。

■課題解決学習：ものごとを解決するとき、多分こうではないかと予想している生徒は77.6%いますが、ものごとを解決するための情報を集める方法を考えている生徒は34.3%でした。また、調べたことをまとめたり、情報を分析したり、理由を明らかにして相手に伝わるように工夫することは44~60%と低く、論理的思考過程の構築が課題であるといえます。今後も自分の考えを発表したり話し合ったりする活動を充実させることで、課題を解決する力を高めていきます。

■表現力：自分の考えを積極的に伝えている生徒は60.2%、自分の考えや意見を、相手に分かりやすく伝えるように工夫している生徒は57.5%でした。相手に分かりやすい具体的な話し方ができるように、様々な活動場面を通して指導していきます。

■学習動機・学習意欲：学習を最後までやりとげてうれしかったことがある生徒が74.4%、将来の仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強していると考えている生徒は74.4%、分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している生徒は69.3%で、県平均より低い結果でした。学習の意義を感じられ、意欲付けられるような指導を引き続き工夫していきたいと思えます。

■社会生活事象への関心や体験等：学校や社会のルールを守っていると考えている生徒が92.9%、近所の人や家の人にあいさつしているとする生徒が89.8%います。反面、地域や子供会などの行事に参加していると答えた生徒は52.0%と低い数値になっています。引き続き、教育活動全般を通じて規範意識の高揚を図るとともに、地域のボランティア活動等への参加も促していきたいと思えます。

■読書活動：読書が好きと答えた生徒は71.3%でした。また、本の内容を友だちや家族と共有したり、学習に本や資料を活用したりしていると答えた生徒が約50%でした。毎日の朝読書の取り組みの充実を図ったり、図書室の利用を促したりしていきます。

■自己実現力・自己効力感：将来の夢や目標を持っている生徒が72.0%、努力すれば自分もたいのことはできると考えている生徒が79.9%います。それに対して、自分にはよいところがありますが61.0%、自分のよさはまわりの人から認められていると思うが59.8%となっています。今後も生き方学習などにおいて、自分の進路を見つめる機会を設定し、授業や特別活動などを通して、自己肯定感をもち自尊感情が育つよう指導していきます。